

第75回 憲法を考える映画の会

憲法映画祭2024

手元資料

- 日時 2024年4月29日(月・休) 10時～19時半
- 会場 武蔵野公会堂ホール(吉祥寺駅南口)

■当日のプログラム

4月29日(月・休)

- 10:00 開場
- 10:20 開会
- 10:30 映画「ヤジと民主主義」(100分)
- 13:00 映画「しではら」(40分)
- 13:40 アニメ「戦争のつくりかた」(8分)
- 14:00 映画「荒野に希望の灯をともす」(88分)
- 15:40 映画「島で生きる」(80分)
- 17:00 湯本雅典監督のお話
- 17:40 映画「サイレント・フォールアウト」(76分)
- 19:00 伊東英朗監督のお話
- 19:30 閉会挨拶
- 20:00 閉場予定

憲法映画祭2024
4月29日(月・休) 10:30~19:30 武蔵野公会堂
*参加費: 1日券2500円(学生・若者1500円) 1回券1000円(学生・若者500円)

4月29日 10:00 開場 10:20 開会
10:30 映画「ヤジと民主主義」(100分)
13:00 映画「しではら」(40分)
13:40 アニメーション「戦争のつくりかた」(8分)
14:00 映画「荒野に希望の灯をともす」(88分)
15:40 映画「ミサイル基地がやってきた 島で生きる」(82分)
17:40 映画「サイレント・フォールアウト」(81分)

会場: 武蔵野公会堂ホール

■手元資料 目次

- 資料① 憲法映画祭と憲法を考える映画の会について P.2
- 資料② 映画『ヤジと民主主義 劇場拡大版』について P.3
- 資料③ 映画『しではら』について P.4
- 資料④ 映画『戦争のつくりかた』について P.5
- 資料⑤ 映画『荒野に希望の灯をともす』について P.6
- 資料⑥ 映画『ミサイル基地がやってきた 島で生きる』について P.7
- 資料⑦ 映画『サイレント・フォールアウト』について P.8
- 資料⑧ 第74回憲法を考える映画の会2024/3/2 参加者感想から P.10
- 資料⑨ これからの憲法を考える映画の会 P.11
- 資料⑩ 憲法を考える映画のリスト2024年版について P.12



憲法を考える映画の会

〒185-0024
東京都国分寺市泉町3-5-6-303
TEL & FAX : 042-406-0502
ホームページ : <http://kenpou-eiga.com/>
E-mail : hanasaki33@me.com

資料① 憲法映画祭と憲法を考える映画の会について

【憲法映画祭2024に向けて】

憲法を考える映画の会はこの4月で12年目に入ります。映画の会や映画祭が近づくと、問合せの電話が入りますが、その後、しばらく話し込んでしまうことがあります。

今の政治や社会情勢に話が及んで、「何とかしなければならぬ」と思っているのですが…という。

「戦争をする準備が進んでいる」ということ、それを問題にする声はなかなか伝えられないこと、差別や分断が押し進められ、民主主義を壊しているような政治がどんどん行われていること…。「何とかしなければ…」、でも「何をしたらよいかわからない」。そうしたあせりに似た気持ちが伝わってきます。

この映画の会を始めた頃、第二次安倍政権ができて、声高に憲法改正を言い出した頃から、それはずっと続いています。そしてその状況は、ますます酷いものになっているように思います。私たちも「何とかしなければ…」とこの会を始めましたが「どうしたら良いのか」の答えはそうそう見つかりません。

でも、この映画の会で出会った人とお話をしたり、意見や感想を聞く中で、同じようなことを感じ、心配し、考えようとしている人がたくさんいる、仲間は少なく無いと感じて励まされる思いがします。

「どうしたら良いのか？」一人一人が考え続けて、できれば、まわりの人と話してみる。映画をいっしょに見て、それぞれに感動したこと、思っていることを出し合っていくことが大切なのではないかと思っています。

【憲法映画祭2024のプログラム】

これまでの「憲法映画祭」では、その時その時のテーマを掲げて、それに合った作品を選ぶという形で進めてきました。

今回はそうしたテーマは設けていないのですが、期せずして「民主主義を考える」「私たちの社会をつくる、平和をつくる」と言うことはどういうことなのかについて考える作品が集まったような気がします。

『ヤジと民主主義 劇場拡大版』

憲法を壊す動きは、私たちの身近なところでそれとはつきりとはわりなく起きている。ここでは「警察によるヤジ排除」という「日本国憲法の根幹である民主主義と表現の自由」を壊す事件から考えていきます。もともとは北海道放送のテレビドキュメンタリー番組。その題名に「ヤジと民主主義～小さな自由が排除された先に～」とあります。

『しではら かどま市が生んだ日本の総理』

9条の「戦争の放棄」を新憲法に盛り込むことをマッカーサーに提案した幣原喜重郎。彼のそうした反戦の思いには、戦前、外務大臣として経験した国際軍縮会議や国際協調主義の考え方があったことをこの映画で知りました。そして憲法第9条が世界から戦争を無くすための日本国民からの提案であったと感じました。

『戦争のつくりかた What Happens Before War』

憲法映画祭では3回目の上映です。とくに英語題名が「What Happens Before War」であることにひかれました。まさに私たちが今不安に思っているところです。戦争をする「国」にするための準備が私たちにどのようなものをもたらしているのか、繰り返し考えていきたいと思えます。

『荒野に希望の灯をともし 医師・中村哲 現地活動35年の軌跡』

中村哲さんがその一生をかけて成した仕事、それこそが日本国憲法の理想の実現だったのではないのでしょうか。「人々の生命と生活を守るために何が大切か」「真の信頼は非武装から生まれる」中村哲さんが遺した憲法についてのことばに励まされます。

『ミサイル基地がやってきた 島で生きる』

今、南西諸島で進められている自衛隊配備の実態が、ほとんど知らされていないことを教えてください。そしてそれに疑問をもち「住民投票を」と活動する人々を描きます。しかしその住民自治の動きは自治体や裁判所によって無視されます。そんなことがあってよいものか、という怒りがわき起こります。

『サイレントフォールアウト 乳歯が語る大陸汚染』

世界中で一番原爆を落とされた国はどこか知ってますか？それはアメリカです。100発を超える原爆が、大気圏内核実験という形で爆発しています。そしてそれらは大陸を放射能汚染で包み、被害をもたらしています。そうした事実をアメリカの人々にこそ知らせたいと、この映画は作られました。より多くの人に、観て、考えてもらいたい映画です。



資料② 映画『ヤジと民主主義 劇場拡大版』について

【映画の解説】

第57回 ギャラクシー賞 報道活動部門、第63回 日本ジャーナリスト会議 JCI賞、第40回 「地方の時代」映像祭賞、第58回 ギャラクシー賞 テレビ部門、第45回 JNNネットワーク協議会賞、むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞など数々の賞を受賞してきた「ヤジと民主主義」。

本作は、2019年7月15日に起こったいわゆるヤジ排除問題を北海道放送報道部の取材班が4年間に渡り追い続け、ニュース報道からドキュメンタリー番組と発信し続け、前述の数多くの賞を受賞しながら、2022年には書籍化、そして2023年春にはTBSドキュメンタリー映画祭のいち作品として札幌会場にて上映。

今回は、これまで描けなかった増税反対を訴え排除された吃音を持ちながらも活動する女子大生（当時）、プラカードを掲げるために現場にきたがそれさえもかなわなかった女性、現在も続く注目の裁判の経過など、より多くの内容を取り込み「劇場拡大版」として公開されることとなった。

ヤジ排除から見てくる警察組織の法的根拠のない権力行使の問題、それを監視すべきメディア、ジャーナリズムの弱体化、そしてそもそも自由にものを言うという全ての人と与えられた権利が、安倍元首相の死亡事件をきっかけに加速度的に萎縮してしまうのではないかと不安などさまざまな側面が本作には盛り込まれている。

これはもはや、ある選挙の応援演説中に起きたいち騒動ではない。この社会で生活していく全ての人、あなた自身に関わってくる問題だ。

【HISTORY】

2019年7月15日 札幌市内4カ所でヤジやプラカードを持った九人を道警が「排除」

2019年7月17日 朝日新聞が「首相帰れ」ヤジ 警察がいきなり排除」と報道

山崎（本作品監督）も現場にいたが、カメラが配置されていない等の状況で、デスク判断でテレビニュースでは5番目に報道した。

2019年12月3日 大杉氏が北海道を相手に国家賠償請求訴訟を札幌地裁に提訴

2020年2月2日 北海道放送「ヤジと民主主義～警察が排除するもの～」放送23分（関東ローカル）「JNNドキュメンタリー ザ・フォーカス」の放送枠

TBS報道担当者に提案するも成立せず。5日後、元「筑紫哲也NWES 23」のキャスターや『米軍が最も恐れた男 その名は、カメジロー』監督の「ザ・フォーカス」プロデューサー佐古忠彦氏に相談。快諾。

2020年2月24日 北海道放送「ヤジと民主主義～警察が排除するもの～」放送（北海道ローカル）

2020年2月25日 札幌地検が大杉さんらを排除した警察官を不起訴処分

2020年2月27日 桃井さんが北海道を相手に国家賠償請求訴訟を札幌地裁に提訴

2020年4月3日 大杉さんと桃井さんの訴訟の一本化が決定

2020年4月26日 北海道放送「ヤジと民主主義～小さな自由が排除された先に～」放送（北海道ローカル）

YouTubeでは、37万回再生、3000件のコメント。

2022年3月25日 札幌地裁が原告2名の訴えを認め、北海道に対して計88万円の支払いを求める。【勝訴！！】

2022年4月1日 北海道が一審判決を不服として札幌高裁へ控訴

2023年4月 TBSドキュメンタリー映画祭2023にて「劇場版ヤジと民主主義」78分上映（札幌のみ）

2022年3月の札幌地裁での判決や7月の安倍晋三銃撃事件といった番組放送後の事態を踏まえての追加取材を加える形とし、安倍晋三銃撃事件について「札幌地裁での判決が適法

としていたやるべき警備を怠った事が事件につながった」といった分析や、道警元幹部によるヤジを行った人物の排除についての解説、控訴審での道警側の主張等を取り上げる
2023年12月9日 公開



【COMENT】

落合恵子（作家・クレヨンハウス主宰）

「損得」と「忖度」。言葉の響きが似ているのも腹立たしいが、この二つが絡み合った

政治はいつまで続くのか。一市民としての当然の権利、表現の自由を拒絶する社会において、わたしたちは一体なにが可能なのか。踏まれたビスケットのように崩れつつある民主主義をまずは取り戻すために、何ができるのか。騒いでどうなる？ なにも変わりはない、と薄い笑いを浮かべて諦めるしかないのか。この流れにブレーキをかけることができるのは、ジャーナリズムであり、わたしたち、ひとりひとりの市民しかいない。いや、ジャーナリズムに身を置くもの、まずは自らが一市民であることを忘れてはならない。

言葉を発することに、ある種の覚悟を要するこの時代に、沈黙を破る思想と姿勢を後押ししてくれる本作品。しっかりと受け止めたい。もの言わぬジャーナリズムや市民が、もの言えぬ社会をつくることを、改めて心に刻んで。

森達也（映画監督）

観終えて脱帽。いや帽子を脱ぐくらいじゃ足りない。

1時間40分はあっという間。とても秀逸で、問題提起は深い。そして何よりも、めっちゃくちゃ面白い。

制作はHBC。つまりテレビ局。そして山崎はテレビディレクター。でもこの作品は政治権力に対して一切忖度しない。モザイクはほぼない。見事だ。土俵際いっぱい炸裂したメディアの矜持がここにある。

鎌田慧（ルポライター）

若者への期待を感じ、勇気を与えてくれる映画だ。

最初はひとりで立ち上がった若者たちの運動が、4年間で彼らは色々な困難を乗り越え、どんどん成長し、支持を受けて運動が広がっていった。「人に迷惑をかけない」という言葉があるが、迷惑ではなく正しい主張であって諦めずに続けている。それを報道しようとするものが現れた。最高裁でどうという判決が出ようと、若者たちの主張が正しいことは映画で証明できている。

映画は歴史を掘り下げ、個人の内面を描く。若者2人の表情がいい。

（映画『ヤジと民主主義 劇場拡大版』公式サイトより）

ヤジと民主主義 劇場拡大版

制作・編集・監督：山崎裕侍 取材：長沢祐

製作：北海道放送

2023年公開/100分/日本映画/ドキュメンタリー

上映問合せ：ムービーマネジメントカンパニー（MMC）

TEL:03-5768-0821

映画『しではら かどま市が生んだ日本の総理』について

【作品の解説】

大阪府門真市に生まれた幣原喜重郎。戦前は外務大臣として平和外交につとめ、戦後は総理大臣として日本国憲法の成立に尽力しました。

幣原は戦争をどう考え、憲法にどんな思いを託したのか。そして、平和憲法成立の経緯とは。映画『しではら』は、秘書の平野三郎が残した「平和文書」などをもとにしたドラマと、幣原の研究者、堀尾輝久・東大名誉教授の解説によってその実像を解き明かすドキュメンタリーです。

(映画『しではら』DVDジャケット・映画解説より)

【この映画を見て】

日本国憲法が制定されたとき、国民、庶民はどのようにこの新しい憲法のことを知らされ、憲法を自分たちのものとしてとらえていくことができたのか、ずっと知りたいと考えていました。とくに第9条「戦争の放棄」について。

どのように日本国憲法の公布を喜んでいたのか、あるいは批判的に見ていたのか、その実感を知りたいと思っていました。

憲法第9条が、連合軍進駐軍によって押しつけられたものではなく、日本側から提案されたものであるという話は前から聞いていました。しかしその提案をしたのが、憲法制定時の首相である幣原喜重郎首相であったということ、その提案にはどのような経緯があったかについては知らないでいました。

この映画は、とくに幣原さんが戦前、外交官として、また外務大臣として、どのように当時の国際情勢に接し、どのように戦争を無くしていけるかを考え、その結果として、この「戦争の放棄」を憲法の中に入れる提案をしたのかを明らかにしていきます。

第一次世界大戦後の1920年、世界戦争の悲惨さを痛感した各国は、「二度と戦争を繰り返さない」ことを意図して国際連盟を作り、1920年代を通して国際協調が強く叫ばれます。

1921年のワシントン軍縮会議、1928年のパリ不戦条約、1930年のロンドン軍縮会議といった動きです。

幣原さんはそうした中、外交官として、また外務次官として、これらの平和外交に関わり、平和に向けての世界的な動きをその中心で見つめています。

この1920年代の軍縮の流れは、当時の、「戦争は違法なもの」とする戦争非合法化といった「非戦」の平和運動の思想があり、それが「戦争の放棄」を規定した1928年のパリ不戦条約につながっています。

そうした非戦を求める世界的な思想を、幣原さん自身が、すでにこの時期に強く持っていたことがわかります。

しかしながら、満州事変以降の軍部の台頭の中で、平和外交は失われ、幣原さんも舞台から離れていきます。しかし、戦後すぐに首相となって連合軍のマッカーサーと対峙したときに、外交官時代に得た非戦の思想は、「戦争の放棄」を憲法に入れる提案につながっていきます。

映画の中では、幣原さんが秘書の平野三郎に話すという形で、マッカーサーに提案したときのこと、そこで自分が考えた「戦争放棄」の世界平和への役割、それを憲法の中に入れることの意味を熱く語ります。

「世界は真剣に戦争を止めることを考えなければならぬ」「戦争をやめるためには、武器を持たないと言うことが一番なのだ、負けた日本だからできることなんだ。」「軍縮を可能にする唯一の方法、世界で一斉に軍備を廃止するんだ、武装する国々の中での非武装、まさに狂気の沙汰だ。武装することが正気なのか、非武装が狂気なのか、それはすばらしい狂気だ。その歴史的使命を日本が果たすんだよ。」



映画の中で幣原さんが話すことばのひとつひとつには、まさに血の出るような、私たちの気持ちにも突き刺さってくるものがあります。そして、日本国憲法第9条に「戦争の放棄」があることは、日本の平和のためばかりではなく、世界から戦争を無くすという目的であったことを、あらためて感じさせられます。

未だに戦争を止めさせることができないばかりか、ますますその火種を作ろうとしているような軍拡をめざす政治の中で、外交によって平和な世界を作り出そうとしていた幣原さんのその思いに気持ちを新たにさせられます。

この映画は、自主制作の形でつくられたものです。幣原さんの出身地大阪・門真市の人たちが憲法第9条戦争の放棄に込められた幣原の思いを伝えていきたいと制作委員会を作って同志を求めて作られたものです。

映画の中では、市電の中で乗り合わせた客達が、「あの戦争はいったいなんだったのか?」「戦争をもう二度としたくない」と戦争に対する思いを語りあう、それを幣原さんが聞いて、「戦争の放棄」について考えを強くすると言うエピソードが描かれています。

という問いかけです。

そしてこの映画のラスト、当時の文部省が国民に向けて日本国憲法を説明した『新しい憲法のはなし』の「戦争の放棄」の一節を学生が暗唱するという形をとっています。

「…そこでこんどの憲法では、日本の國が、けっして二度と戦争をしないように、二つのことをきめました。その一つは、兵隊も軍艦も飛行機も、およそ戦争をするためのものは、いっさいもたないということです。これからさき日本には、陸軍も海軍も空軍もないのです。これを戦力の放棄といいます。「放棄」とは「すててしまう」ということです。しかしみなさんは、けっして心ぼそく思うことはありません。日本は正しいことを、ほかの國よりさきに行ったのです。世の中に、正しいことぐらい強いものはありません。」

日本国憲法第9条の「戦争の放棄」が、当時の人々の戦争への怒りと戦争を無くすという人々の切なる願いから生まれたこと、それを形にした憲法が生まれたことを人々が喜んで受け入れたことが感じ取れます。

(法学館憲法研究所ホームページ「シネマDE憲法」2024年4月19日記事https://www.jicl.jp/articles/cinema_20240419.htmlより転載しました。)

しではら かどま市が生んだ日本の総理

制作 脚本・監督：齋藤 勝

監修：堀尾輝久

制作統括：戸田伸夫

2019年公開/40分/日本映画/ドキュメンタリー&再現

DVD購入・上映問合せ：幣原喜重郎生誕150年祭記念事業実行委員会

〒571-0058 大阪府門真市小路町 19-5

☎ 090 -4301 -6219

DVD購入価格：2000円(税・送料別)

資料④ 映画『戦争のつくりかた』について

【映画の解説】

みなさま、『戦争のつくりかた』という絵本は知っていますか？

これは2004年、この国が戦争へと近づいていくのではないかと気づいた人たちによって制作された「絵本」です。

しかし、この絵本をいま開くと、驚くべきことに、いまの日本や私たちの日常はその絵本に描かれている「戦争へと導かれていく国」の姿へと日々近づいているように思えます。

終戦70周年を迎えた2015年、新たに戦争の悲しみと不条理を繰り返してはならないと考えた私たちは、この物語を広く伝えるためにアニメーション映像化しようと考えました。

3.11の東日本大震災とそれにまつわる福島原発事故をきっかけに立ち上げられた映像作家やアーティストたちの集団「NOddIN（ノディン）」が中心となって、日本の数多くのアニメーション作家と共に「絵本の言葉をリレー形式でアニメーション化する」という自主制作のプロジェクトが始動し、構想期間を含め約1年以上の制作期間を経てこの短編映画を完成することができました。

私たち日本に住む国民は、約70年、直接には戦争を経験していない国の中で生きてきました。しかしこのまま行けば、次の世代が戦争を経験することになってしまうかもしれない。

戦争を知らない世代が、自分たちの都合や責任感の無さによって、次の世代に戦争を押し付けてしまうことになるかもしれないのです。

わたしたちはそれぞれにいろんな立場があります。

でも、どんなに政治的な議論をしても、それぞれの解釈を持ってしても、「戦争をしてはならない」という想いだけは、誰もが疑いなく「イエス！」と言えるものであると思っています。

憲法で戦争を放棄すると決めた国、日本。

大きな犠牲のもとに築かれたこの平和な70年という遺産を、次の世代にきちんと手渡しできるかは、私たちひとりひとりが一歩を踏み出せるかどうかによらねられているのです。

この作品に協力してくれた数多くの人々に感謝を込めて。

そして、この物語が、多くの人々の心に触れ、平和の礎の一つになることを願って。

2015年10月2日

The NOddIN team チーム 一同

【COMMENT】

アーサー・ビナード（詩人）

逆引きハウツーもの光

さまざまなハウツーものやメソッドやマニュアルが巷にあふれているけれど、その中で異彩を放つのはこの『戦争のつくりかた』だ。戦争をしかけて利益を得ようとする連中は、先祖伝来のメソッドを使い、脈々とテクニックを受け継いできている。ただ、そんなのが下々のぼくらには伝わってこない。庶民をだますためのメソッドとテクニックだから当然といえる。ところが、一種の「逆引き辞典」として組み立てられたのが『戦争のつくりかた』。ま、ペテンを逆手に取るための「逆見抜き戦争辞典」と呼ぶべきか。

ぼくらが生きのこるためのハウツーもの『戦争のつくりかた』だが、今度は優れた映像作家の力が新たに注ぎ込まれ、美しく複眼的なアニメの短編に発展した。これを観て一人ひとり、自分の「人生のつくりかた」を問われると思う。無抵抗のままずるずる戦争メソッドに資金提供をつづけるのか、否か。生き方そのものを「逆引き」に切り替えて闘うときが来た——この映像は力強く引っ張ってくれると思う。

木内みどり（女優）

参加して下さったアーティストの方々に心からの拍手を贈りたいと思います。十人十色どころか百人百色、みんなちがってみんないい。一人ひとりには微力でも無力ではない。みんな「戦争はしない、させない！」といい続けましょう。



奥田愛基（SEALDs）

「戦争はずっと起こっていた。昨今、安保法制が大きく話題になったけど、その前にも沢山の戦争があって、沢山の人が亡くなった。そしていつも残ったものは、沢山の犠牲の反省から戦争以外の方法は本当になかったのか、という後悔だった。僕たちは、戦争が終わってからじゃないと本当にこのことに気がつけないのか。忙しい毎日の中でそんなこと考えるヒマなんてないかも知れないけど、戦争にビビってることは、変なことじゃない。威勢の良いこと言って安心感を持つより、戦争は二度とゴメンだと素直に言いたい。」

想田和弘（映画監督）

元になった本は2004年、忍び寄る戦争の小さな足音に気づいた市民が共同で執筆した、一種の「予言の書」である。それから11年。予言が次々と実現されつつあることに震撼させられる。しかし、予言はまだそのすべてが現実になったわけではない。これ以上予言が的中するのを防ぐために、私たちに何ができるのだろうか。

井筒 高雄（元陸自レンジャー隊員）

軍事機密が増えれば、国家機密が膨張する。報道規制が行われ、自由が制約されて自主規制が起こり、委縮する社会にかわる。誰も不安を感じず、身柄を拘束されることもない、自由に発言のできる社会でありたい

小森陽一（東京大学大学院教授）

眼を凝らそう、一人ひとりの人の動きとかかわり方に、一つひとつの物のつくりかたとつかわれ方に、そして何よりお金の流れ方に。眼で見たことを、自分の言葉にしてみよう。言葉が生まれて来たら、すぐそばにいる人に語りかけてみよう、そして一緒に眼を凝らそう。そばにいる人の言葉に耳をすまそう、そして語り合おう、戦争のつくりかたについて。日本を戦争をする国に変えるための法体制が、憲法を踏みにじり、民主主義を破壊して強行採決された今だから、しっかり眼の焦点をあわせ、見ぬいたことを言葉にしよう。そして戦争のつくりかたについて言葉を交わそう。そして考えよう、自分の力で何が出来るか。戦争のつくりかたの過程の、どこを止められるか。わかったらすぐ、行動にうつそう。

（「戦争のつくりかた」公式サイト：
<http://noddin.jp/war/>より転載しました）

戦争のつくりかた

製作：アニメーションプロジェクトNOddIN
2015年制作／8分／日本映画／アニメーション
DVD購入問合せ：鎌仲ひとみwebshop(ぶんぶんフィルム)
HP:<http://shop.kamanaka.com/?pid=101432732>
映画HP◆ <http://noddin.jp/war/>

資料⑥ 映画『荒野に希望の灯をともし 医師中村哲現地活動35年の軌跡』について

【映画の解説】

アフガニスタンとパキスタンで35年にわたり、病や戦乱、そして干ばつに苦しむ人々に寄り添いながら命を救い、生きる手助けをしてきた医師・中村哲。NGO平和医療団日本（PMS）を率いて、医療支援と用水路の建設を行ってきた。

活動において特筆すべきことは、その長さだけでなく、支援の姿勢がまったくぶれることなく、一貫していたことだ。一連の活動は世界から高く評価され、中村医師は人々から信頼され、愛されてきた。

今、アフガニスタンに建設した用水路群の水が、かつての干ばつの大地を恵み豊かな緑野に変え、65万人の命を支えている。

しかし、2019年12月。用水路建設現場へ向かう途中、中村医師は何者かの凶弾に倒れた。その突然の死は多くの人々に深い悲しみをもたらした。だが、一方で私たちに強く問いかけもする。中村医師が命を賭して遺した物は何なのか、その視線の先に目指していたものは何なのか。中村哲が遺した文章と1000時間におよぶ記録映像をもとに、現地活動の実践と思索をひも解く。

（製作会社・日本電波ニュース作品紹介より）

【映画を見て】

中村哲さんが銃弾に倒れて1年たってこの映画は作られました。中村哲さんと一緒に仕事をしてきた人たちや中村さんを知る人の、深い嘆きと悲しみの時間を経てもたらされた落ち着いた感じます。

映画は、中村哲さんが大学医学部卒業後、山岳会遠征隊同行医師としてヒンズークシ山脈に出会い、パキスタンのペシャワールの病院に赴任し、医療の仕事を開始した動機を振り返るところから始まります。

中村さんの活動の進め方を知って、感心するのは中村さんが常に「何をしたら良いのか」「何をしなければならぬのか」「どのようにしたら良いのか」を考え、行動できる人であることです。

今回、映画を見た後、中村さんの片腕として現地で活動していた看護師の藤田千代子さんのお話を聞くことができました。その中でいくつか、強く残った中村さんのことがあります。

ひとつは、彼が70歳を迎えた時に藤田さんに言ったということば。「私がいても、いなくても、あと20年くらいは続けてくれ、その位、アフガニスタンは厳しい。」

映画を見て、また藤田さんのお話を聞いて、強く感じたのは、中村さんが亡くなった後も「緑の大地計画」をはじめ彼の始めた仕事が、滞りなく続けられ、広がっていることです。それもアフガニスタンの人々の手によって計画そのものを作りながら、着実に実行されているようです。

突然中村さんが亡くなったことは、おおきな衝撃だったと思いますが、用水路建設をはじめとする活動がすぐ開始されたこと、とくに昨年は鉄砲水で、水路が寸断されてしまったのですが、ちょうど田植えの時期に重なっていたので、その修復が3日と待たずに行われ、水の供給が出来たことなど、現地の人々が、中村さんを失った後も、建設と用水の作業が何もなかったように続けられたということなのです。

藤田さんの話にまたこんな話がありました。中村さんは医療支援から、水の大切さを痛感し、飲料水のための井戸掘り、灌漑に使える井戸掘りへと活動を続けてきたのですが、大飢饉とアメリカの「対テロ戦争」によって発生した難民に食料を届けるために、支援を求めて走り回り、食料を送り込む活動を続けていた時のことです。

中村さんが用水路建設の話、つまり「緑の大地計画」を突然言い出したそうです。



そんなことできつくないと言う声が多い中で、藤田さんはその計画に大賛成、思わず「バンザイ」を叫んでしまったというのです。

藤田さんはそれまでの気持ちを「食料をアフガニスタンの難民に、援助・支援によって届けるのはいいが、いったいつまでそうしたことを続けるのか？」と言うことにモヤモヤしていたところだったといえます。「その計画が実現したら、アフガニスタンの人々が自分たちで、食料を手に入れることができる」と言う解答を直感的に感じたといえます。

そうした、自分たちが援助して助けるということよりも、その土地に生きる人たちが自分たちで続けることができることをつくること、そして土地を離れた難民が帰ってきてこの土地で働いて生活できるようにすること、が、彼のめざしたものの「緑の大地計画」の根底にあったわけなのです。

映画のなかで、用水路ができる前と後の風景を同ポジションで比較した映像が出てきます。わずか三年の後に、荒れ地が緑に、文字通り大地が息を吹き返すように緑が広がる姿に驚きます。

おそらく中村さんも、一緒に働いたアフガニスタンの人たちも同じように「出来すぎではないか」と驚いたのではないのでしょうか。しかし、そうした、「仕事」「活動」の結果のイメージがきっと中村さんの頭の中にあっただろうということに感心します。

こうした目に見えることを実現したということで、アフガニスタンの人々の自信になり、誇りになり、未来への可能性を実感できるものになるのだと思います。

「通水の時には、どこからともなく子ども達がやってきてはしゃぎ回る」。そのシーンに何か浮き立つものを感じます。「子ども達が、腹一杯食べてくれるようになれば嬉しい」。子ども達に対する中村さんの視線を感じさせるシーンがこの映画の中にいくつかあります。将来、遺志をつないで実現していくものが子ども達であることを感じさせます。

脳腫瘍で逝った10歳の次男への思い、通水の水を浴びてはしゃぐ子ども達にその姿をみる中村さんの述懐は、中村さんの思いの中に生き続けたものを強く感じさせます。

（法学館憲法研究所ホームページ「シネマDE憲法」2021年5月31日記事https://www.jicl.jp/articles/cinema_20210531.htmlより転載しました。）

荒野の希望の灯をともし 医師中村哲現地活動35年の軌跡

監督：谷津賢二

製作：日本電波ニュース社

2022年製作／90分／日本映画／ドキュメンタリー

上映の問合せ：ペシャワール会

DVD購入価格：2970円

TEL：092-731-2372

資料⑥ 映画『ミサイル基地がやってきた 島で生きる』(1)

【映画のあらすじ】

この映画は、2018年から5年以上かけて沖縄県石垣島の陸上自衛隊基地をめぐる市民の運動、生きざまを追いかけたものです。

ひとつめとしては、石垣市自治基本条例にある「有権者の4分の1以上の署名が」あれば「市長は、所定の手続きを経て住民投票を実施しなければならない」という条文を根拠に、署名を集めた「石垣市住民投票を求める会」の中心メンバー、金城龍太郎さん(署名運動当時、28歳)たちの「人となり」をカメラは追います。残念ながら、石垣市は住民投票を未だに実施していません。

ふたつめに、花谷史郎さんという若い市議会議員を追いました。彼は、はじめは自衛隊基地に反対ではありませんでした。しかし、石垣市や防衛省の対応の中で、徐々にミサイル基地建設に疑問をいだき、そして市議会議員として市民の声を届けることを自らの仕事として選ぶこととなります。

いま日本社会が民主主義を失い、軍事力強化にひた走りつつあると言われる中で、「地方自治」という言葉の持つ意味を日本に住む人たちに深く考えていただくきっかけとなればと思い、この映画をつくりました。

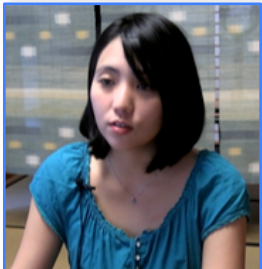
【この映画の製作者:湯本雅典】

【主な登場人物】



金城龍太郎さん

石垣市住民投票を求める会代表。
マンゴー農園で働く。2018年住民投票署名運動時は、28歳。住民投票義務付け訴訟、同当事者訴訟の原告。



宮良麻奈美さん

石垣市住民投票を求める会 事務局。
2018住民投票 署名運動時は、26歳。住民投票義務付け訴訟、同当事者訴訟原告。



川満起史(たつし)さん

マンゴー、アセロラ農園で働く。
石垣市住民投票 裁判当事者訴訟原告。



花谷史郎さん

花谷農園でゴーヤ、ズッキーニをつくる。石垣市議会議員。



砥板(といた)芳行さん

2022年石垣市長選挙 に野党統一候補として立候補し、落選。石垣市議会 議員。元自民党石垣市支部幹事長。



山里節子さん

「いのちと暮らしを守るオバーたちの会」会長。7歳で「戦争マラリア」を体験し、家族が犠牲になった。

【解説】

石垣島にミサイル基地建設のいきさつ

2015年防衛省が来島し、石垣市平得大俣地区に陸上自衛隊ミサイル部隊を配置することを通告。周辺の「公民館」が反対を訴えながらも、2016年中山石垣市長は建設受け入れを表明した。2019年3月から建設工事に入り、2023年3月16日に陸上自衛隊「石垣駐屯地」が開設した。

石垣市自治基本条例 (2010年4月1日、石垣市で沖縄県で初めて自治基本条例ができた) 第28条 市民のうち本市において選挙権を有する者は、市政に係る重要事項について、その総数の4分の1以上の者の連署をもって、その代表者から市長に対して住民投票の実施を請求することができる
4. 市長は、第1項の規定による請求があったときは、所定の手続きを経て、住民投票を実施しなければならない。
★2021年6月28日 石垣市議会で石垣市自治基本条例改悪(住民投票条項の削除など)が強行された。

自治基本条例とは

2000年4月1日に成立した「地方分権一括法」では国、都道府県、市町村の関係を対等のものとし、地方のことは地方で、自らの責任において自主的かつ総合的に決定するということが基本的な考え方として示された。そこで、各自治体ごとの独自の「条例(規則)」として「自治基本条例」が全国各地で制定された。全国の自治基本条例の数は2023年4月1日現在で407区市町村、全国の23.4%。4自治体で新たに施行。

【自治基本条例のある東京都の自治体】

*区部:杉並区・文京区・中野区・豊島区・練馬区・新宿区
*市町村部:清瀬市・多摩市・三鷹市・国分寺市・小平市・調布市・東村山市・武蔵野市・小金井市
・新宿区(有権者の5分の1)、東村山市(有権者の6分の1)には独自の実施規定があり、ともに投票規則は条例で別に定めることになっている。
・小金井市では、永住外国人にも住民投票権がある。

石垣島住民投票運動の流れ

2018年11月「石垣市住民投票を求める会」は、1か月で「自治基本条例」にある4分の1どころか3分の1以上にあたる14000人以上の署名を集める。これは、石垣市行政史上、自治基本条例制定史上初のこと。

2019年2月1日 市長は集まった署名を「自治基本条例」の扱いとせず、地方自治法扱いで議会に条例案を発議した。市議会では10対10の同数。議長採決で「住民投票条例案」は、否決された。
(次ページに続く)

資料⑥ 映画『ミサイル基地がやってきた島で生きる』について（2）

*その後、龍太郎さんたちは、自治基本条例を守るよう再三に渡って市に要求。しかし石垣市は、「すでに市議会議決済み」を理由に取り合わなかった。

裁判に突入

*ひとつめの裁判:義務付け訴訟（市長には住民投票を行う義務があり、住民投票の実行を求めた）

地裁判決:(2020,8,27) 本件には「処分性がない」とし、請求を棄却。その理由は、「投票規則が定められていない」から。しかし、まだやるとも決まっていなかったのに「規則」が決まっている投票なんて存在しない。

高裁判決:(2021,3,23) 地裁判決を支持。上告は棄却。市長の義務は、条例案の発議までとした。となると有権者の50分の1で条例案を発議するとしている「地方自治法」とどう区別するのか。また、有権者の4分の1という過酷なハードルにあげた意味は、どうなるのかの説明がつかなくなる。

最高裁:(2021,8,25) 上告棄却

2021年6月 石垣市議会は、石垣市自治基本条例の拾院投票条項を削除する案を与党多数で議決した。

*ふたつめの裁判:当事者訴訟(原告には、「住民投票を行う権利がある」ことを確認する裁判)

2023年5月23日地裁判決:棄却

理由は、自治基本条例には、住民投票条項がないから。しかし、署名運動を行った2018年11月には、住民投票条項は、存在していた。法律とは、本来未来に向かって効力を発揮するもの（不遡及の原則）。

ドキュメント石垣島 2023年のできごと

2023年3月5日 陸上自衛隊駐屯地 軍用車両150台以上(ミサイル発射台含む)を民間港から陸揚げ駐屯地へ搬入

3月16日 駐屯地開設

3月18日 ミサイル弾薬を民間港から陸揚げ搬入

3月22日 市民への説明会

4月22日 防衛省「破壊措置命令」発出。宮古島、石垣島、与那国島にPAC3配備石垣島には、8月30日まで駐屯地外の国有地(海水浴場の隣)に、PAC3を2基配備。9月1日からも駐屯地内に配備中

5月23日 石垣市住民投票裁判当事者訴訟那覇地裁判決 却下

9月7日 米海軍(第7艦隊所属)掃海艦「パイオニア」が民間港に接岸(8日午後3時、石垣港を離れる)

9月14日~16日 普天間基地所属の米オスプレイが石垣空港に緊急着陸

9月30日 駐屯地で「空包演習」の公開

10月7日 「やいまDAY」と称して駐屯地公開イベントに1800人参加。子ども対象にした軍用車への体験搭乗や演習の公開

10月14日~31日、日米合同演習「レゾリュートドラゴン」琉球弧でも展開陸自オスプレイ離発着訓練(石垣空港)、19日、24日に離発着

(映画『島で生きる』パンフレットより)

ミサイル基地がやってきた 島で生きる

企画・撮影・編集：湯本雅典 ナレーター：名川信子
唄・演奏 Yoshitoo! 山里節子
ハルサーズ 大月ひろ美 山本ちひろ 撮影協力 蔵原実花子
撮影：2019,2 ~ 2024,1
完成：2024,3

上映貸出：湯本雅典 (090-6039-6748)
湯本さんは出張上映とお話もされる「上映屋(JYOEIYA)運動」も
行っています。

資料⑦ 映画『サイレント・フォールアウト』(1)



【映画の解説】

1951年からアメリカ国内(ネバダ核実験場)で始まった核実験は、928回に及んだ。そのうち、100回が大気圏内核実験だった。

大気中で行われた核実験によって生まれた膨大な量の放射性物質は、風でアメリカ各地に運ばれ、雨や雪とともに落ち、地上を汚染し続けた。

アメリカ原子力委員会は、調査の結果、ストロンチウム90が全米の牛乳を強く汚染していることを把握していたが、国民に知らされることはなかった。ところが、1950年代なかばから、大陸が放射能汚染されていることを国民は徐々に知ることとなり、とくに放射能汚染の影響が強いとされるセントルイスで女性を中心とした大きな動きが生まれる。

それが「乳歯調査」と呼ばれる活動だった。

子どもたちは、被曝しているのか? カルシウムに似た性質をもつストロンチウム90は、骨や歯に留まる。そのため、抜けた乳歯を検査すれば、子どもが被曝しているかどうかを証明できる。最終的に集まった乳歯は、32万本。分析の結果、子どもたちの被曝が裏付けられた。はたして、乳歯調査の結果は世界の未来を変えたのか?

(「カクワカ広島」のホームページの映画解説 <https://kakuwakahiroshima.jimdofree.com/event-11182023/>より)

【今回の映画を見て考えていきたいこと】

「放射線を浴びたX年後」(2012年)、「放射線を浴びたX年後II」(2015年)と一貫して原子爆実験に放射線被曝被害を追い続けた伊東英朗さんの新作です。

伊東さんは、アメリカ人にこそ、放射線汚染被害の実態について知ってもらわなくてはと言う思いから、この新作『サイレント・フォールアウト』のアメリカ本土での上映運動を作り上げようとしています。私たちも、そうした動きに賛同し、この映画の上映を拡げていくことを通して、国際的な場で核廃絶に向けての運動に役立てていきたいと思っています。

この映画の魅力は、いろいろありますが、何よりも、子ども達を被曝から守るために女性たちが始めた『乳歯調査』という市民運動を紹介しているところにあると思います。

監督の伊東さんも「女性の行動がアメリカを救った。政治をチェスのように考える男性の論理ではなく、命に目を向ける女性の行動こそが変革を起こす」「まず事実を知ること、そして核兵器を持つと言うことは自分や家族やみんなの命を、知らないうちに捧げているんだと言うことを知った上で考えてほしい」と話されています。

この映画をより多くの人に見てもらって、核廃絶に向けてみんなで考えてもらう、そうした「運動」をつくりあげていければと思っています。

資料⑦ 映画『サイレント・フォールアウト』（2）

【映画の感想】

ひさびさに「これは多くの人に紹介して、自主上映を呼びかけていきたい」と思う映画に出会いました。

それは、この映画が、放射線被曝被害の知識や情報を伝えるというだけでなく、核兵器の廃止や放射線被害を無くす活動をしている人たちを励まし、力づける映画でもあると思ったからです。さらに、今の状況を何とかしていかなければならないと知っている人にとっても、この映画を見て、感じたことをまわりの人々に知らせることから、それぞれの動きを始めることができる映画だからです。

この映画の監督、伊東英朗さんは、2012年に『放射線を浴びたX年後』、そして2015年に『放射線を浴びたX年後II』を制作しました。それらの映画で、1954年にビキニ環礁での水爆実験により被曝した漁船の乗組員のその後を追った映画を作り続けました。

伊藤監督は、これらの作品をアメリカ国内で上映してまわった時に、アメリカの人たちが、核兵器の開発過程でアメリカ大陸全域が放射能汚染していることをまったく知らないことに驚いたと言います。そしてその核実験によるアメリカ人の被曝を追うこのドキュメンタリーの映画の制作を始めます。米国は核兵器を持つために行った核実験で、自分の国の人たちに甚大な被害を与えていること、核兵器を持つことがどれだけ大きなリスクと引き替えなのかを浮き彫りにするためです。

4000ページに及ぶ詳細な資料の分析と、30人の証言者への丹念な取材をもとに、映画は作られています。草立てがしっかりしているためでしょうか、構成がとてもわかりやすく、伝えようとしていることが私たちの気持ちに入ってきます。そこには核実験によって被曝した人々の悲しみと怒りの強いメッセージだけでなく、見ている人の気持ちを引き込んでいく優しさのようなものを感じます。

それは、この映画が、子どもを被曝から守るために女性たちが始めた「乳歯調査」が話の中心になっているからかもしれません。映画の上映前に見せていただいた監督のビデオメッセージの中でも「女性と放射能」「女性の視点」という言葉がありました。

平和のための活動や運動を進める力を女性がもっていることを日頃から感じているのですが、監督の伊東さんも、「女性の行動がアメリカを救った。政治をチェスのように考える男性の論理ではなく、命に目を向ける女性の行動こそが変革を起こす」と話されています。

もうひとつこの映画を見ていて私が感じたのは、今の政治や国民の意識が、いかに「科学」を大切にしていないかということです。

映画は、「乳歯調査」運動などの科学的解明こそが、人々を納得させる力をもち、核実験を無くす運動に広がっていったことをわからせてくれます。

しかしそうした真実を知りたいとする科学的な解明の運動にも、また政治は圧力を加えます。乳歯調査を運動にしていく過程でも、この調査運動は「共産主義者を利するものだ」という圧力がかかったといいます。その裏には軍の戦争を行う上で都合な活動を抑え込もうとするものがあるのでしょうか。

今、この国で進んでいる「自衛隊を軍隊と認め、戦争できる国にしようとする動き」にも同じようなものを感じます。軍をもつことを認めることによって、戦争に勝つための理由にして、ますます都合なことは隠し、知らせない」ことが進むような気がします。

日本の学術会議評議員推薦人事への介入や大学や研究機関での軍事利用科学研究の優遇政策にも、「科学」を都合よく戦争に利用しようとするものに通じるものがあることを思い起こさせます。



科学を大切にしている国とそうでない国、それはどれだけ、記録し、それを保存し、また開示するかというところでも感じます。監督の伊東さんも「まず事実を知ること、そして核兵器を持つということは自分や家族やみんなの命を、知らないうちに捧げているんだということを知った上で考えてほしい」と話しています。

監督の伊東英朗さんは、この映画をアメリカで上映してこそ意味があると、現在、アメリカで上映活動を進めていると聞きました。映画を制作するだけでなく、この映画をより多くの人に見せて、考えてもらうために努力していく、是非その「運動」を手伝ってほしいと思います

(法学館憲法研究所 シネマde憲法2023年11月13日『サイレント・フォールアウト 乳歯が語る大陸汚染』より)
https://www.jicl.jp/articles/cinema_20231110.html

サイレント・フォールアウト 乳歯が語る大陸汚染

プロデューサー・監督・撮影：伊東英朗
ナレーション：日本語版 加藤登紀子
2015年制作/148分/日本映画/ドキュメンタリー

上映問合せ：サイレント・フォールアウト・プロジェクト
☎ 090 -9775-3919 / Mail: itohideaki0915@gmail.com
映画HP◆ <https://fallout22.com/>

資料⑧ 第74回憲法を考える映画の会（2024/3/2）参加者感想から



第74回「憲法を考える映画の会」は、2024年2月3日、文京区民センターで行い、参加者95人でした。当日は、アメリカの核実験による放射性物質被曝の実態と核実験停止を訴えた市民運動を描いた『サイレント・フォールアウト』（76分）を見て考えました。

参加者の皆さんからいただいた参加票の感想を転載させていただきます。

【参加票に寄せられたコメント】

●2024年1月1日能登半島地震…志賀原発の安全性がもんだいになりましたが、真相はどうだったのか、究明されたのでしょうか。大いに疑問です。2月13日つくば市でシンポジウムがありました。映画会もそれは原発をとめた裁判長そして原発をとめる農民たち。原発の場所は元日の地震の震源地のすず「すず原発」とも言われています。原発設置に反対した元校長先生、そして地震で崩壊した寺の住職そして多くの住民が闘いの先頭に立った。ご住職に「ありがとう」の電話があったような。われわれの住む美しい日本、そして地球をこれ以上汚してはいけませんね。今日は何にも知らなかったアメリカのお話しを見て聞くことができ、ありがとうございました。(S.H.)

●放射能汚染について具体的事実として認識することができました。(M.S.)

●いつも企画をありがとうございます。
・本作品は放射能の危険性と恐ろしさを改めて感じさせられるものでした。(米国から援助された脱脂粉乳も心配になりました)原発をいくつも抱える日本の国民も我が事として考えなくてはならない問題だと思います。
・最近観た映画「原発を止めた裁判長」も皆さんに観ていただきたいと思います。(K.S.)

●今日はありがとうございます。
アメリカに行かれてのさつえい大変だと思います。とても意義深い作品。大勢の人にみていただきたいです。
・土井敏邦かんとく作品
・“愛国の告白・沈黙を破る”Part 2”
・土井敏邦ジャーナリスト「ガザに生きる」
テレビでみたのですがぜひ土井かんとくの作品上映お願いできたらと思います。(M.N.)

●頭の中で、ケネディー大統領を日本の岸田首相に置きかえてみました。歯を送った母親達や科学者達は「反日」と侮られ、馬鹿にされて相手にもされず、罵声を浴びていたのではないのでしょうか。
研究資料も歯も残されず、行方不明となってそんな事実は無かった事にされてしまいそうです。

首相も「そのような事実はありません。」と言い、マスメディアもそれに右へ倣えと都合の悪い情報は流さず、真実を追求する人達には罵声だけではなく、SNSにさらされ、強迫状や暴力やテロに怯えて暮らすことになる。— というようなディストピアな世界しか想像できません。
(※まだ1・1ショックから立ち直れていないのかもかもしれません。暗い話でごめんなさい！)(R.T.)

●ストロンチウム90の、最も影響を受けるのは、0才～20才の人と映画の中で言っていました。科学的根拠を示すことで、国の方向性を変えられると思います。が、例えば福島工場制ガン調査追跡検査など「増」と出ても、影響ありと言えないと医療関係者は言ってますよね。

・でも当時で甲状腺ガンと言われた若者が、国を訴えて裁判をしています(東京地裁)。映画の中で「母親達が」やったこと。地みちな活動が身を結ぶ、と再確認しました。若い者が危険な目に合わないよう、年齢が高い者の責任かと思っています。甲状腺ガンの若者の訴えに耳を傾けて欲しい、と思います。(K.K.)

●今日はありがとうございました。
何度か参加し、いつも影響のある映画を企画してくださり、感謝しております。
伊東英朗監督を応援しております。
4月29日、武蔵野公会堂ホールでの上映を楽しみにしています。(F.O.)

●能登・志賀原発は何か、皆の注意をそらそうとなるべく知らぬ顔をしている当局メディアの意図を感じます。今日あらためて再認識しました。(K.Y.)

●被爆者と聞くと広島・長崎を思い浮かべますが、今日この映画をみて、世界中にいるのだろうかと思いました。開発・実用化(!!!?)した米国、同盟国の英国、核兵器を開発しているロシア、フランス、中国、インド、北朝鮮にも多勢いることでしょうか。インターネットを通じ、国境を越えて情報を共有できるようになりました。多くの人が連帯して核兵器が廃絶できる環境が出来ていると思いました。私が何をすればいいのか、しなくちゃいけないのか考えます。(E.O.)

●今回はすばらしい映画を沢山のみなさんとみる事ができて、とてもうれしかったです。
いい会ですね。みなさまスタッフのホスピタリティにも感じ入りました。
やはりどの会も同じですが、これらのリアルな体験の系譜をどうやって若い世代へ伝えていけるかと、つくづく考えます。それでもやはり、一歩ずつですね。
ありがたい半日でした。(M.O.)

●初参加です。
鑑賞の機会をいただき、ありがとうございました。
記録(乳歯調査会会議録)が公の機関に保存されていることに感銘を受けました。日本の現状とは大違い。
このような記録映画の製作には、苦労が多いと思いますが、茨城の田舎から応援してます。(H.S.)

●親(女性)たちが社会を動かした点は、非常にはげまされた。一方、アメリカ(日本も)では多くの人知らない事実。日本も同じと思います。
1人でも多くの人に知ってもらいた。(M.T.)

●核実験の放射能が全米を汚染していたとは知りませんでした。これは全米に知らせるべきです。私も周りに話そうと思います。(M.M.)

●すごい映画 ありがとうございます。
アメリカの国のすごさ。
市民を見ていないこと。消もろ品(?)とは、誰のための実験だったのか。世界各国で実験地の周辺、風下の住民たち。どんなことがあったのか。この内容と同じことが起こったと想像できます。
ガンの病気が増えてる、納得できました。(M.K.)

資料⑧ 第74回憲法を考える映画の会 (2024/3/2) 参加者感想から (2)

【参加票に寄せられたコメント】

●米ソの核実験の放射能を子どもの頃にたっぷり浴びたであろう身としてガン患者の増加に絶望的になります。サイレントフォールアウトの日本版も作ってほしいところです。アメリカの政府と軍は兵士や国民をモルモットとしてしか思っていないのだといういろいろ調べてきて思っております。アメリカでの上映、ぜひ実現していただきたいです。(Y.M.)

●すごい映画 ありがとうございます。アメリカの国のすごさ。市民を見ていないこと。消もう品(?)とは、誰のための実験だったのか。世界各国で実験地の周辺、風下の住民たち。どんなことがあったのか。この内容と同じことが起こったと想像できます。ガンの病気が増える、納得できました。(M.K.)

●米ソの核実験の放射能を子どもの頃にたっぷり浴びたであろう身としてガン患者の増加に絶望的になります。サイレントフォールアウトの日本版も作ってほしいところです。アメリカの政府と軍は兵士や国民をモルモットとしてしか思っていないのだといういろいろ調べてきて思っております。アメリカでの上映、ぜひ実現していただきたいです。(Y.M.)

●ありがとうございました。親戚にアメリカ人がいます。是非ともアメリカでの上映、議会でとりあげるところへつなげましょう！応援しています！一緒に進もうと出来ることあれば！(M.I.)

●今日の映画、とても良かったです。知らない事が知れて勉強になりました。他のメディアでも学べない事がありました。またの機会を楽しみにしています。(I.)

●福島の子どもの甲状腺ガンが増えているのに国が認めていないことに怒りを押さえられません。そして、原発事故以来、ガン保険の宣伝が増えたり、明らかにガンが増えているのは事実だと思った。(Y.O.)

●いつも映画会ありがとうございます。今日も戦争拡大の米のイランのニュースが流れてました。悲しいです。マンデラ氏の人種融和の手腕をもっと知りたいです。(K.K.)

●最初から最後まで、集中して見ることができました。とてもいい映画だと思います。知らないことがたくさんありました。もっとたくさんの人に見てもらいたいで、四月の映画祭でやってほしいと思います。(無記名)

●4000ページの文書とは、どんなものか知りたいです。アメリカの情報公開の仕組み、感服します。サブテーマとして女性の役割を示されていました。女性の活躍に拍手を送ります。(無記名)

●J.F.ケネディを暗殺したのは、「やつら」だったのではないか!!(無記名)

●とてもくわしい各国のデータで、映画にされたことがすばらしいです。ごころうさま。そして、何より、核廃絶の条約をきちんとヒジユンするよう日本政府にもせまりたいです。(無記名)

●伊東監督の前2作も非常に科学的でかつとても心打つ作品で印象に残っていました。今回も事実・真実に基づく、高質で感動的な作品でした。日本でも多くの人に鑑賞してもらいたい作品です。是非、核廃絶につなげたいです。(無記名)

資料⑫ これからの憲法を考える映画の会 (あとおいニュース 第47号)

第76回憲法を考える映画の会

と き：2024年6月29日(土) 13:30~16:30
ところ：文京区民センター 3A会議室
(地下鉄春日駅・後樂園駅)
プログラム：未定

第77回憲法を考える映画の会

と き：8月上旬~中旬(予定)
ところ：文京区民センター(地下鉄春日駅・後樂園駅)
プログラム：未定
*6月初めに会場が確定しますのでご案内します。
*憲法を考える映画の会は2ヶ月に1回、文京区民センターを主会場として映画を見て話し合いをもつ会を行っています。
*ほぼ1ヶ月前にプログラムをご案内しますので、メールアドレスを登録ください。hanasaki33@me.com 花崎

第8回 むのたけじ反戦塾

と き：2024年6月15日(土)
13時30分~17時(13時開場)
ところ：文京区民センター3C会議室
(地下鉄春日駅・後樂園駅)

「むのたけじ反戦塾」は、むのたけじさんが遺した「戦争はいらぬ、戦争をやらぬ世へ」の反戦と憲法の講演の映像と一緒に見て、今、当面している問題について意見を出し合っていく学習会です。

話し合われた内容、参考にしたい書籍などを「手元資料」として事前に作っておりますので、ご関心のある方は下記までご連絡ください。

*問合せ先：090-4599-5314 武野
〒338-0006 さいたま市中央区八王子4-7-10-201
E-mail:dmuno@jcom.home.ne.jp 武野

関連上映会&催し案内

現代造形表現作家フォーラム展

と き：2024年5月4日(土)~5月10日(金) 7日休館
ところ：東京都美術館ギャラリーA(上野駅)

長田衛の仕事「マルコムXと急進的黒人解放運動」

と き：2024年4月10日(水)~5月5日(日)
ところ：古書ほうろう台東区池之端2-1-45
(東京大学池之端門前) TEL03-3824-3388

第9回 戦争の加害パネル展「上海で日本軍は何を」

と き：2024年4月27日(土)~5月5日(日)
ところ：神奈川県民センター1階展示場(横浜駅)
映 画：4月27日14時『南京!南京!』
18時『ぼくたちは見た ガザ・サム二家の子どもたち』

資料⑨ 「憲法を考える映画のリスト」2024年版について



新しい「憲法を考える映画のリスト」2024年版」が完成しました。できるだけ多くの方が自主上映会をできるような手の届く作品を選んでいきます。

新しく付け加えた映画は以下に挙げるような71作品。全部で168作品、68ページのリストになります。

憲法を考える映画

(憲法ができるまで)

『しではら かどま市が生んだ日本の総理』

(憲法を平和に活かす)

『荒野に希望の灯をともし 医師中村哲 現地活動35年の軌跡』

『医師 中村哲の仕事・働くということ』

(人権をめぐる)

『生きるのに理由はあるの？』

津久井やまゆり事件が問いかけたものは…』

(人権をめぐる)

『ワタシたちハニゲンダ！』

『海辺の彼女たち』

『東京クルド』

(国家と教育)

『教育と愛国』

『子どもたちの昭和史』

『君が代不起立』

『プリズンサークル』

(国家とは？)

『日の丸 寺山修司40年目の挑発』

『REVOLUTION + 1』

(弾圧に耐えて)

『福田村事件』

(戦争の中で)

『失われた時の中で』

『娘は戦場で生まれた』

民主主義を考える映画

(自由と民主主義のために)

『ヤジと民主主義 劇場公開版』

『パークレー 市民がつくる町』

『パブリック 図書館の奇跡』

(自由と権利を守る)

『グレタ ひとりぼっちの挑戦』

『悠久よりの愛 脱ダム新時代』

『食の安全を守る人々』

(基地との闘い)

『日本原 牛と人と大地』

『矢白別物語 北の大地からのメッセージ』

(安保との闘い)

『怒りをうたえ』

『1969新宿西口地下広場』

『戦車闘争』

『狼をさがして』

『きみが死んだあとで』

『三里塚に生きる』

『三里塚のイカロス』

(働く人々の権利と闘い)

『作兵衛さんと日本を掘る』

『ここから「関西生コン事件」と私たち』

『日本人オザワ』

『オキュバイシャンティ インドカレー店物語』

(政治をわれらに)

『2887 アベ政治を記憶する』

『パンケーキを毒味する』

『妖怪の孫』

『国葬の日』

『なぜ君は総理大臣になれないのか』

『シン・ちむどんどん』

(ジャーナリストの闘い)

『ジャーナリズム・メディアの再生 戦後70年・未来への課題』

『標的』

『燃え上がる記者たち』

『コレクティブ 国家の嘘』

『命(めち)かじり 森口谿 沖縄と生きる』

『裸のムラ』

『はりぼて』

『テレビで食えない芸人』

『新聞記者』

戦争を考える映画

(戦争をつくるもの)

『戦争のつくりかた』

『21世紀の資本』

(日本軍の犯罪)

『日本鬼子』

(戦争が残したもの)

『カウラは忘れない』

『オキナワサントス』

『いまはむかし 父・ジャワ・幻のフィルム』

『記憶の戦争』

『ガラスのうさぎ』

『対馬丸 さようなら沖縄』

『うしろの正面だあれ』

(戦争に巻き込まれる)

『傍観者あるいは偶然のテロリスト』

(戦争に行かされる)

『ジョニーは戦場へ行った』

(沖縄の戦いと闘い)

『戦雲』

『ミサイル基地がやってくる 若きハルサーたちの唄』

『ミサイル基地がやってきた 島で生きる』

『サンマデモクラシー』

『水どう宝』

核を考える映画

(原爆から考える)

『長崎の郵便配達』

『TOMORROW 明日』

『太陽が落ちた日』

(核実験から考える)

『サイレント・フォールアウト 乳歯が語る大陸汚染』

* 「憲法を考える映画のリスト2024年版」ご希望の方は、「憲法を考える映画の会」まで、ご住所、電話番号またはメールアドレスをお送りください。映画祭、上映会の会場でも販売しています* 1部800円 (+ 郵送の場合送料200円)
* 郵便振替：憲法を考える映画の会
口座番号：00170-2-729555
「リスト2024年版」をお送りするときに「振替払込取り扱い票」を同封します。